

# 治水

発行 全国治水期成同盟会連合会

東京都千代田区麹町4丁目8番26号 ロイクラトン麹町  
電話 03(3222)6663 FAX 03(3222)6664  
ホームページ <https://zensuiren.org/>  
お問い合わせ [infoinfo@zensuiren.org](mailto:infoinfo@zensuiren.org)  
編集・発行 椿本和幸



11月16日開催 治水事業促進全国大会 齊藤鉄夫国土交通大臣 (来賓挨拶)

## ● 目次

令和4年 治水事業促進全国大会(速報).....	2
令和4年度 北陸地方治水大会.....	3
令和4年度 近畿地方治水大会.....	10

# 令和4年 治水事業促進全国大会(速報)

(詳細は、12月号に掲載致します。)

## 出席者

国会議員	衆議院議員	73名
	衆議院議員(代理)	121名
	衆議院議員	22名
	参議院議員(代理)	54名
	合 計	270名
都道府県	市町村長	482名
	(市町村長に全水連役員出席者を含む)	
	都道府県・市町村職員	716名
	合 計	1,198名
国土交通省	本省	23名
	地方整備局等	155名
	合 計	178名
関係法人		13名
協会長・陣内最高顧問		2名
出席者合計		1,661名

# 令和4年度 北陸地方治水大会

と き：令和4年10月27日(木) 13時10分～  
 ところ：新潟グランドホテル「悠久の間」

## 北陸地方治水大会次第

(敬称略)

記念講演	演題「大河津分水と流域治水」 講師 信濃川大河津資料館コーディネーター	樋口 勲
開会	大会実行委員長 (湯沢町長)	田村 正幸
挨拶	新潟県副知事 全国治水期成同盟会連合会長 新潟市副市長	佐久間 豊 脇 雅史 朝妻 博
座長推挙	大会実行委員長 (湯沢町長)	田村 正幸
来賓祝辞	国土交通省北陸地方整備局長 新潟県議会議長	内藤 正彦 小島 隆
祝電披露		
治水事業の現状説明	国土交通省水管理・国土保全局治水課長 国土交通省北陸地方整備局河川部長	林 正道 安達 孝実
意見発表	新潟市土木部土木総務課企画係長 燕市総務部危機管理監	藤下 真悟 十河 浩
大会決議	大会実行委員 (燕市長)	鈴木 力
次回開催県挨拶	富山県河川海岸協会会長 (黒部市長)	武隈 義一
閉会		

※参加185名

### ■記念講演



信濃川大河津資料館コーディネーター  
樋口 勲

※「大河津分水と流域治水」という演題で、信濃川大河津資料館コーディネーター 樋口 勲 様より御講演をいただきました。

### ■開会



北陸地方治水大会実行委員長  
田村 正幸 (湯沢町長)

本日、北陸地方治水大会で大会実行委員長を務めます新潟県湯沢町長の田村でございます。  
 開会にあたりまして一言御挨拶申し上げます。  
 本日は、御多忙の中、全国治水期成同盟会連合

会の協会長にお越しいたごき、また、御来賓として、国土交通省水管理・国土保全局治水課長の林様、北陸地方整備局長の内藤様、県議会からは新潟県議会の小島議長様をはじめ、多くの皆様方に御臨席を賜り、北陸地方の治水事業関係者が一堂に会し、ここ新潟におきまして、令和4年度北陸地方治水大会を盛大に開催できますことを、主催者の一人として、心から感謝申し上げます。

本年においても、8月3日からの記録的な大雨により、北陸地方をはじめ、全国で浸水被害、土砂災害が発生し、各地に大きな爪痕を残しました。

国土を保全し、水害等から国民の生命財産を守り、安全な生活を確保する基盤となる治水事業の役割は、極めて重要であり、今後とも関係機関の協働と着実な推進が不可欠であります。

本大会を契機として、北陸地方の治水事業の更なる推進につながることを心から御祈念申し上げまして開会にあたっての御挨拶とさせていただきます。

## ■挨拶



新潟県副知事 佐久間 豊

令和4年度北陸地方治水大会の開催に当たりまして一言御挨拶を申し上げます。本日は、国会議員はじめ御来賓の方々や関係者の皆様の御出席をいただき、主催者の一人として厚く御礼申し上げますとともに、心から歓迎申し上げます。

ここにお集りの皆様におかれましては、日頃から、国土の保全及び地域の安全と発展に欠かせない治水事業の推進に多大な御尽力をいただいておりますことに深く敬意を表します。

さて、近年の気候変動等の影響により、全国各地で毎年のように災害が繰り返し発生しています。本年においても、8月3日からの記録的な大雨や台風14号、15号等により、北陸地方をはじめ、全国で浸水被害、土砂災害による甚大な被害が生じました。お亡くなりになられた皆様の御冥福をお祈りいたしま

すとともに被害に遭われた方々に心からお見舞い申し上げます。

8月3日からの記録的な大雨では、これまで国の「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」や「5か年加速化対策」等を活用して進めてきた河道掘削や河川整備により河川の氾濫がかなり抑えられ、また、的確な避難行動により人的被害が最小限に留められたことから、ハード・ソフト一体となった防災・減災対策の重要性を改めて認識したところです。

本県といたしましては、激甚化・頻発化する自然災害に対応するため、引き続き、国の「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」等を積極的に活用して河川整備を進めるとともに、併せて、流域の既存施設の活用や、住まい方の工夫など、行政機関に加え、企業や住民の皆様など、あらゆる関係者と協働しながら流域治水を一層推進し、県民の安全・安心の確保にしっかりと取り組んでまいりたいと考えております。

そのためには、根幹となる国直轄事業の予算確保はもとより、地方が行う中小河川をはじめとした防災・減災対策に必要な予算を例年以上の規模で確保するとともに、地方交付税措置などの一般財源の安定的かつ継続的な財政支援をいただくことが不可欠であります。

本日の大会を契機といたしまして、お集りの皆様が一丸となって治水事業の一層の推進を図るとともに、北陸地方の総意を結集し、国に対して治水事業の計画的な推進を働きかけ、大きな成果が得られますことを御祈念申し上げ、御挨拶といたします。

令和4年10月27日

新潟県知事 花角 英世  
(代読 新潟県副知事 佐久間 豊)



全国治水期成同盟会連合会長 脇 雅史

一言ご挨拶を申し上げます。

本日、北陸地方治水大会を開催いたしましたところ、皆様には、多数ご参集いただき、誠にありがとうございます。

このように盛大に大会が挙行できますことは、大変に意義深く、皆様のご支援、ご協力に対して心より感謝を申し上げます。

ご承知のとおり、近年、気候変動の影響により、全国各地で豪雨災害が激甚化・頻発化しており、本年も8月3日から大雨並びに台風第14号及び第15号等により全国各地において記録的な大雨となり、甚大な浸水被害や土砂災害が発生しております。北陸地方においても新潟県、石川県において、8月3日から断続的に猛烈な雨が降り、浸水被害や土砂災害が発生し、約4,100棟におよぶ住家被害が発生しております。

本年の豪雨災害等により、お亡くなりになられた方々に対して、謹んで哀悼の意を表しますとともに、被害に遭われた方々に心よりお見舞い申し上げます。

このような、豪雨災害から国民の命と暮らしを守るためには、抜本的な治水対策が急務であり、国土交通省におかれては、一昨年12月に閣議決定された「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」を着実に推進するため、地域の皆様と協働し、「流域治水関連法」に基づく制度を活用して、流域治水を強力に推進し、防災・減災が主流となる社会づくりに全力で取り組んでいただいております。引き続き、治水対策推進に係る必要かつ十分な予算の確保に務めなければなりません。

また、治水事業の現場を担う地方整備局並びに北海道開発局の定員が国土交通省発足時より約7,000人減少していることから、計画的に組織・定員の拡充を確保することが肝要であり、TEC-FORCEの体制・機能の充実・強化を図る必要もあります。

全水連といたしましては、このような状況から「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」に掲げる中長期の数値目標を一刻も早い達成に向け、必要な予算・財源の確保を図ると共に「5か年加速化対策」の後中長期的に明確な見通しのもと、引き続き国土強靱化に必要な予算・財源を計画的かつ安定的に確保を図ることを目的として、全国7地方での大会を開催し、全国の治水関係者の意見を

集約して参ることといたしております。そして、11月16日に治水事業促進全国大会を東京で開催し、皆様の総意を国会並びに政府に要請することとしております。

今後とも、ご参集の皆様のご協力を頂き、治水・利水事業促進運動を強力に展開していく所存でありますので、引き続きのご支援・ご協力をお願いいたします。

結びに、北陸地方治水大会を開催するに当り、格別のご高配を賜りました新潟県をはじめ、関係の皆様にお礼を申し上げますと共に、本日ご参集の皆様のご健勝とご活躍を祈念いたしまして挨拶いたします。

令和4年10月27日

全国治水期成同盟会連合会 会長 脇 雅史



新潟市副市長 朝妻 博

北陸地方治水大会の開催にあたり、一言御挨拶を申し上げます。

令和4年度北陸地方治水大会が本市で盛大に開催されますことを、お喜び申し上げるとともに、本市にお越しの皆さまを心より歓迎いたします。

さて、全国各地で水災害が激甚化・頻発化し、大雨により河川の氾濫や土砂災害が発生し甚大な被害が発生しております。

このような状況を目の当たりにするたび、流域全体であらゆる関係者が共同して行う治水対策の必要性を痛切に実感するとともに、本日御臨席をいただきました国土交通省の皆さまにおかれましては、TEC-FORCE(テックフォース)を現地に派遣されるなど、復旧・復興の支援に御尽力いただいておりますことを心より感謝申し上げます。

少し本市の歴史について御紹介させていただきます。

本市は、日本一の大河である信濃川が、水の都新潟を象徴する四季折々の自然をもたらしています。かつての信濃川は、水害が多発し私たちの暮らしを苦しめてきましたが、大河津分水、関屋分水の整備を



はじめとした治水事業により排水機能が向上しました。その後、乾田化が進み、全国有数の田園地帯となり豊かな食文化をもたらしています。他にも土壌環境が安定化したことで高速道路や新幹線などの交通網の整備を加速化させ、都市圏とのアクセスが飛躍的に向上し、高度経済成長期を支える土台となりました。

また本年は、大河津分水が通水100周年、関屋分水が通水50周年の節目の年です。改めて私たちの現在の暮らしの礎には、こうした治水事業の恩恵があることを忘れず、将来に引き継いでいくことが大切であると感じています。

現在、「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」により、国におかれましても「令和の大改修」と呼ばれる大河津分水の改修事業をはじめ、施設整備を一層進めていただいておりますことを感謝申し上げます。引き続き、流域治水の要となるハード対策、北陸管内の治水事業をより一層推進していただきますようお願い申し上げます。

結びに、本大会が治水事業のさらなる推進のきっかけとなり、北陸地方の治水安全度の向上と、私たちの安心・安全な暮らしが確保されることを祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。

令和4年10月27日

新潟市長 中原 八一  
(代読 副市長 朝妻 博)

## ■来賓祝辞



国土交通省北陸地方整備局長 内藤 正彦

本日、ここに北陸地方治水大会が開催されるにあたり、一言御挨拶を申し上げます。

御臨席の皆様方には、平素から国土交通行政の推進にあたり、多大なる御支援・御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

我が国は自然災害に対して、極めて脆弱な地形、

地質条件にあり、毎年、全国のいずれかで大規模な洪水、土砂災害が発生しています。今年も、大河津分水路通水から100年、関屋分水路通水から50年を迎えていますが、これまでに整備を行った治水施設が大きな効果を発揮する一方、近年、気候変動の影響が顕在化しつつあり、今後さらに水害の頻発化、激甚化が懸念されています。

北陸地方においても、令和元年東日本台風による出水では、長野県内で堤防決壊による甚大な被害が発生するとともに、新潟県内においても、信濃川の大河津分水路で計画高水位を10時間にわたり最大で77cm超過し、堤防決壊のおそれのある非常に危険な状態となったことは、記憶に新しいところです。

さらに、今年8月には、新潟県の荒川や石川県の梯川などにおいて、1時間に100mmを超える非常に激しい記録的な大雨により、家屋の浸水や土石流による甚大な被害が発生するなど、さらなる治水対策の必要性を痛感しているところです。

このような状況下において、昨年3月には、皆様方から御協力をいただき、管内一級河川の12水系で216機関参加のもと、「流域治水プロジェクト」をとりまとめ、河川の上下流、本支川のあらゆる関係者で流域一体となった防災対策を加速させているところです。

この流域治水を本格的に実践していくためには、「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」も活用し、堤防整備や河道掘削、ダム建設等の事前防災対策を加速化させるとともに、皆様にも流域治水関連法の枠組みを活用いただきながら、総力を挙げて「流域治水」に取り組んでいく必要があると考えていますので、引き続き御協力をお願いします。

このように、北陸地方の国土強靱化を進めていくためには、必要な予算をしっかりと確保していく必要があります。予算獲得に全力で取り組んでいただいている皆様に感謝申し上げるとともに、治水対策の必要性を訴える皆様の声を力にし、私どもも治水対策の前進に全力で取り組んで参る所存です。

最後に、本大会の御成功と、御臨席の皆様への御健勝と本連合会の益々の御発展を祈念いたしまして、挨拶に代えさせていただきます。

令和4年10月27日

国土交通省北陸地方整備局長 内藤 正彦



新潟県議会議員 小島 隆

令和4年度北陸地方治水大会の開催に当たり、新潟県議会を代表しまして、一言お祝いを申し上げます。

本日、北陸地方各県をはじめ、治水事業関係者の皆様方を新潟へお迎えし、本大会がかくも盛大に開催されますことは、誠に喜ばしい限りであり、御来県の皆様方を心から歓迎申し上げますとともに、日頃から治水事業の推進に多大な御尽力をいただいておりますことに対し、深く敬意と感謝の意を表する次第であります。

御承知のとおり北陸地方は、急峻な地形と人口の集中する低平地を流れる河川が多く、雪解けや梅雨の時期などに洪水が発生しやすい状況であることから、災害を未然に防ぐための、積極的な治水事業の実施が強く求められてきたところでございます。また、近年では、気候変動の影響から局地的な大雨等による水害が各地で頻発し、本年においても、8月3日からの大雨により甚大な被害が発生しています。被害に遭われた皆様に関心からお見舞い申し上げます。

激甚化する風水害等への対策や、予防保全型インフラメンテナンスへの転換に向けた老朽化対策等の社会資本の整備を進め、併せて、迅速かつ適切な避難行動への支援など、ソフト対策も含め総合的な治水対策を推進していくことが何よりも重要と考えております。

このような中、北陸地方をはじめとする治水関係者の皆様方が一堂に会し、治水事業の計画的な推進に向け、熱意と英知を結集されますことは誠に意義深く、その成果に大きな期待を寄せているところでございます。

私ども新潟県議会といたしましても、この豊かで美しい国土を自然災害から守り、安心・安全な暮らしを実現するため、今後とも治水事業の推進に鋭意努めてまいります。

御来場の皆様方におかれましても、本日の大会を契機として、治水事業の一層の推進により国民生活の向上と安定に、なお一層の御尽力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本大会の御成功と本日御列席の皆様のお健勝・御活躍を祈念申し上げまして、お祝いの言葉といたします。

令和4年10月27日

新潟県議会議員 小島 隆

### ■治水事業の現状説明

国土交通省水管理・国土保全局  
治水課長 林 正道

※「最近の治水行政について」と題し、御説明をいただきました。



国土交通省北陸地方整備局 河川部長 安達 孝実

※「北陸地方の治水行政に関する最近の動向」と題し、御説明をいただきました。

### ■意見発表



新潟市土木部土木総務課企画班係長 藤下 真悟

※「大河津分水・関屋分水と新潟の暮らし」と題し、ふたつの分水と新潟の暮らし、そしてこれからの川との関わりについて、意見を発表していただきました。



燕市総務部危機管理監 十河 浩

※「マイ・タイムラインの市民への普及」と題し、マイ・タイムライン作成の経緯や市民にその必要性を理解してもらうための取組について、意見を発表していただきました。

## ■大会決議



北陸地方治水大会実行委員 鈴木 力（燕市長）

以下の大会決議案を読み上げて提案し、原案のとおり決定しました。

### 決 議(案)

北陸地方は、日本有数の長大河川や急峻な山岳地帯に源を発する急流河川を有し、その洪水特性のため、高い水害リスクを抱えている。

また、沿川の土地利用は進展しており、一度氾濫すると被害は甚大となる一方、集中豪雨や台風等により、毎年のように災害を繰り返している。

令和元年東日本台風では、東日本の広い範囲において大規模な浸水被害や土砂災害が発生し、千曲川・信濃川においては、既往最大の水位を観測し、長野市穂保地区での堤防決壊による大規模な浸水被

害をはじめとして、各地で極めて甚大な被害が生じた。

また、本年も8月3日からの記録的な大雨により、北陸地方をはじめ、全国で浸水被害、土砂災害が発生し、各地に大きな爪痕を残しただけでなく、2名の方が犠牲となり、約7,000棟に及ぶ住家被害が発生するなど、毎年、激甚な災害が全国各地で発生している。

地球温暖化に伴う気候変動の影響により、今後更なる水害の頻発・激甚化が懸念されており、自然災害に対する安全性の向上が喫緊の課題である。

一方、北陸地方は我が国有数の多雨多雪地帯であり、北アルプスなど山岳地帯から流れ出る清冽な水の流れは、美しい河川景観を形成し、歴史や文化を育んできたところであり、緑豊かな自然環境と潤いのある生活環境の場としての期待も大きい。

このような実情に鑑み、河川がもたらす自然の脅威から住民の生命・財産を守るため、河川改修等による治水施設の整備に加え、氾濫域も含めて一つの流域として捉え、流域全体で水害を軽減させる「流域治水」を推進し、治水事業を加速するとともに、将来の気候変動を見据えた総合的な対策を行うことが急務である。さらに、豊かで美しい地域の形成に向け、潤いとやすらぎのある水辺環境の創出を図っていかなければならない。

こうした中で、長年にわたり行われてきた治水事業が、近年の大規模洪水に対する役割、効果のみならず、治水関係事業費が大きく縮減され、事業の推進を熱望する地域の切実な声に応えることができないことは、まことに憂慮に堪えない。よって、私たちはここに北陸地方治水大会を開催し、その総意に基づき、次の事項の実現について国会並びに政府に対し強く要望する。

### 記

一 激甚な水害がどの地域でいつ発生しても不思議ではない状況を踏まえ、「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」を活用した取組を強力かつ計画的に実施することができるよう、物価や人件費の高騰による影響も考慮の上、令和4年度補正予算及び令和5年度当初予算において、昨年度を上回る大幅な増額を図るとともに、対策完了後においても、国土強靱化に必要な予算・



財源を計画的かつ安定的に別枠で確保すること。

令和4年10月27日

北陸地方治水大会

- 一 気候変動による影響を反映した治水計画の見直しに加え、流域全体を俯瞰し、国や流域治体、企業・住民等、あらゆる関係者が協働して取り組む「流域治水」の実効性を高め、強力に推進すること。
- 一 水門等施設の老朽化対策、河道に堆積した土砂等の対策など、継続的に施設機能を確保する維持・修繕・更新といった予防保全を計画的に行うための予算を確保するとともに、地方財政措置の拡充等を図ること。また、あわせて水門等の自動化・遠隔化を推進すること。
- 一 被災した地域で再び同様な災害が生じないように、改良復旧等による再度災害防止対策を加速化すること。あわせて、それに必要な予算を、補正予算を含めて大幅に措置し、集中的に対策を推進すること。
- 一 洪水予測やダム・水門等の施設運用の高度化・迅速化やデジタル技術を活用した災害リスクコミュニケーション等、治水分野のデジタル・トランスフォーメーションを強化すること。
- 一 ダム建設やダム再生事業を推進するとともに、利水容量を洪水対策に活用する「事前放流」について、関係者が連携して効果的に取り組めるよう、降雨予測の精度を向上させること。
- 一 災害時はもとより、住民に最も身近な存在である基礎自治体を将来にわたり安定的に支えていくことができるよう、地方整備局の組織・体制の充実を図ること。また、被災自治体に対する技術支援を行うTEC-FORCE(緊急災害対策派遣隊)の体制・機能の強化を実現すること。
- 一 北陸地方の豊かな自然、美しい景観、歴史と文化に根ざした、治水と環境の両立を図り、生態系ネットワーク、多自然川づくり等、水辺空間の創出等、河川の有する多様な機能を活かす「グリーンインフラ」の取組を推進すること。

以上、決議する。

#### ■次期開催県挨拶



富山県河川海岸協会長 武隈 義一（黒部市長）

次期開催県の富山県河川海岸協会長（黒部市長）に御挨拶をいただきました。

# 令和4年度 近畿地方治水大会

と き：令和4年10月18日(火)  
 ところ：福井県県民ホール(AOSSA8階)  
 Web併用

## 令和4年度 近畿地方治水大会 次第

(敬称略)

### 第1部 特別講演

「近年の豪雨災害の頻発化を踏まえたダム役割」

ー長時間アンサンブル降雨予測でダム操作をどう変えるか?ー

京都大学防災研究所水資源環境研究センター教授 角 哲也

### 第2部 治水大会

開 会

主催者挨拶	福井県知事	杉本 達治
	全国治水期成同盟会連合会会長	脇 雅史
	福井県治水海岸協会会長	東村 新一(福井市長)
来賓祝辞	参議院議員	山崎 正昭
	近畿地方整備局長	渡辺 学
	福井県議会議長	大森 哲男

来賓紹介・祝電披露

大会座長推挙	福井県治水海岸協会会長	東村 新一(福井市長)
意見発表	福井県南越前町長	岩倉 光弘
	福井県高浜町長	野瀬 豊
	奈良県川西町長	小澤 晃広
	兵庫県たつの市長	山本 実

治水事業概要説明	国土交通省水管理・国土保全局治水課長	林 正道
大会決議	福井県治水海岸協会副会長	渡辺 英朗(若狭町長)
次回開催県挨拶	和歌山県県土整備部河川・下水道局長	太田 和良
閉 会		

### ■特別講演



京都大学防災研究所  
 水資源環境研究センター教授  
 角 哲也

※「近年の豪雨災害の頻発化を踏まえたダムの役割」ー長時間アンサンブル降雨予測でダム操作をどう変えるか?ーをテーマに、ご講演いただきました。

## ■主催者挨拶



福井県知事  
杉本 達治

本日は令和4年度の近畿地方治水大会を開催いたしましたところ、近畿2府6県から多くの首長様並びに関係者の皆様にお集まりいただき、また国会議員の先生方、さらには県議会の先生方、国土交通省の皆様方を初め多くのご来賓の皆様にもお越し賜りまして、こうして盛大に開催できますことを心から感謝を申し上げます。

最近は本当に大きな気候変動の影響を受けて、大雨が降ったり、大きな台風が来たりといったことが続いております。今年の8月には、福井県におきましても勝山市、南越前町を中心として鹿蒜川や野津又川、こういった河川を中心に大きな災害が起きたところでした。

北陸自動車道、国道8号線や国道365号線、さらには北陸本線等の交通手段が全て南北で分断をされ、福井県内は行き来ができない状況になったところでした。やはり治水というのが人の命を守る上でも生活を守る上でも重要な施策であると日頃から感じているところです。

福井県におきましてはこれまでも河川改修やダム事業などさまざまな事業に取り組んでおります。県内では、足羽川ダム、吉野瀬川ダムの整備も進んでおります。

そうした中で、この治水大会が行われるわけがございます。本日は、この大会を通じて近畿地方の治水に対する総意を結集し、国に対して一致団結をして治水を一層進めていただくように働きかけを行ってまいりたいと思います。国におかれましては、こうした気持ちを受けとめていただき、さらに大きな治水事業での成果を上げていただければと考えております。

また、福井県におきましては1年半後になりますが、来年度末に北陸新幹線が福井・敦賀までやってきます。さらに2年後の令和7年度末には、中部縦貫

自動車道が岐阜県との間までつながります。そうしますと関東甲信越さらには中京との間がとて近くなる。多くのお客様を迎え入れるようにということで、県内では例えば三方五湖の整備は順調に進んでおりますし、この10月1日には一乗谷の朝倉氏遺跡博物館をオープンさせていただきました。全国的に有名な恐竜博物館も来年の夏にはオープンをさせていただきますし、東尋坊や永平寺周辺の整備も着々と進めているところです。1年半経ちますと、この駅前も大きく一変をしている、今はまだ工事中ですが、大きなビルが建ってホテルもやってきます。

さらに、新しいブランド米いちほまれがこの10月1日から発売になって全国で好評をいただいておりますし、11月6日になりますと、毎年越前がにも食べられるようになります。

皆様方には、今夜もゆっくりしていただければありがたいと思いますし、また新幹線や中部縦貫自動車道ができましたら、これを使ってどんどん福井にもおいでいただければと思っております。

結びになりますが、本日の大会がこうして開催できますことは、関係者の皆様方のお力添えと心より感謝を申し上げますとともに、近畿地方の治水対策が一層進みますこと、さらにはご参会の皆様方のご健勝、ご多幸を心よりご祈念申し上げて、私からの歓迎のご挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございます。



全国治水期成  
同盟会連合会会長  
脇 雅史

本日、近畿地方治水大会を開催いたしましたところ、皆さまには、多数ご参集をいただき、誠にありがとうございます。このように盛大に大会が挙行できますことは大変に意義深く、皆さまのご支援ご協力に対して心より感謝を申し上げます。

ご承知の通り、近年、気候変動の影響により、全国各地で豪雨災害が激甚化・頻発化しており、近畿地方においては、平成30年7月豪雨並びに平成30

年台風第21号による暴風雨により甚大な被害が発生しております。

これらの豪雨災害の記憶も冷めやらぬ中、本年も8月3日から大雨並びに台風第14号および第15号等により全国各地において記録的な大雨となり、甚大な浸水被害や土砂災害が発生いたしました。本年の豪雨災害等によりお亡くなりになられた方々に対して、謹んで哀悼の意を表しますとともに、被害に遭われた方々に心よりお見舞いを申し上げます。

このような豪雨災害から国民の命と暮らしを守るためには、抜本的な治水対策が急務であり、国土交通省におかれては、一昨年12月に閣議決定された「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」を着実に推進するため、地域のみな様と協働し、流域治水関連法に基づく制度を活用して、流域治水を強力に推進し、防災・減災が主流となる社会づくりに全力で取り組んでいただいております。引き続き、治水対策推進にかかる必要かつ十分な予算の確保に努めなければなりません。

また、治水事業の現場を担う地方整備局並びに北海道開発局の定員が国土交通省発足時より約7千人減少していることから、計画的に組織・定員の拡充を確保することが肝要であり、TEC-FORCEの体制・機能の充実・強化を図る必要もあります。

全水連といたしましては、このような状況から、「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」に掲げる中長期の数値目標の一刻も早い達成に向け必要な予算・財源の確保を図るとともに、5か年加速化対策の後も中長期的に明確な見通しの下、引き続き国土強靱化に必要な予算・財源を計画的かつ安定的に確保を図ることを目的として、全国7地方での大会を開催し、全国の治水関係者の意見を集約してまいることといたしております。そして、11月16日に治水事業促進全国大会を東京で開催し、皆さまの総意を国会並びに政府に要請することとしております。今後とも、ご参集の皆様のご協力をいただき、治水・利水事業促進運動を強力に展開していく所存でありますので、引き続きのご支援・ご協力をお願いいたします。

結びに、近畿地方大会を開催するに当たり、格別のご高配を賜りました杉本達治福井県知事をはじめ、関係の皆様にご挨拶を申し上げますと共に、本日もご参集の皆様のご健勝とご活躍を祈念いたしまして挨拶いたします。どうもありがとうございました。



福井県治水海岸協会会長  
(福井市長)  
東村 新一

大会の開催に当たり開催地を代表いたしまして、一言ご挨拶をさせていただきます。

本日は大変お忙しい中、国会議員の先生並びに渡辺近畿地方整備局長を初め国土交通省の皆様、協全国治水期成同盟会連合会長、そして県内外の治水関係機関の方々など、多くの皆様にお集まりをいただき、厚く御礼申し上げます。また、皆様方には日ごろから治水事業に多大なるご尽力をいただいておりますことに、心から感謝と敬意を申し上げます。

さて、近年は全国各地で水害が相次いでおり、多くの尊い命や貴重な財産が失われております。ここ福井県におきましても、平成16年7月の福井豪雨において、足羽川の左岸堤防が決壊し、福井市の木田地区、みのり地区が大きな被害を受けました。

また、昨年7月や本年8月にも福井豪雨に匹敵する大雨が降り、多くの河川で越水や溢水が発生しました。日野川の支川である志津川や鹿蒜川の堤防決壊により、多くの家屋が浸水し、県道が通行止めになるなど大きな被害を受け、現在も復旧に向けた取り組みが続いております。

このような状況に対し、国におかれましては「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」や個別補助事業の創設などにより大きく事業を進めていただいております。また、流域治水の取り組みも始まっております。本市では、九頭竜川流域治水プロジェクトを推進し、調整池の整備を行うとともに、福井市洪水土砂災害ハザードマップの市民への周知に力を入れております。

頻発化する水害から、住民の生命と財産を守り、安全安心な生活環境を確保するためには、今後も国、県、市町村がそれぞれの役割を積極的に担っていかねばなりません。本日、ご列席の皆様には、これからも一層ご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

最後にこの大会が治水事業の発展のために意



義あるものとなりますことを祈念申し上げますとともに、ご参会の皆様方の今後ますますのご活躍を期待申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。ようこそいらっしゃいました。

## ■来賓祝辞



参議院議員  
山崎 正昭

今日は衆議院国会開会中ですので、地元選出国會議員を代表して、私から一言ご挨拶を申し上げます。本日は我がふるさと福井県で近畿地方治水大会が皆さま方多くのご参加のもとで極めて盛会に開催されますこと、心よりお喜びを申し上げます。また、福井へおいでいただきましたこと、心よりご歓迎申し上げます。

さて、私、実は先ほど京都大学の先生からご講義がございました、ダム関連のところに生まれ育ちました。人生80年のうちに2回のダム建設によって生まれ育った故郷を離れました。こういった治水事業を見てきましただけに、国会生活30数年の中で非常に関心を持って今日を迎えさせていただいております。

そういった意味で、この治水の大切さを身にしみて感じております。道路事業、快適な生活、利便性を伴う生活も大変大事であります、治水は生命財産を守っておるわけですので、行政の上でも政治の上でも極めて重要な事業と受けとめさせていただいております。

私は昭和40年に二晩で1,043mmという未曾有の豪雨に見舞われ、生まれ育った故郷は流れてしまいました。今はダムの湖底にあるわけですが、先ほど角先生のダム事業の機能の問題を申されておられましたが、極めて大切な問題だと受けとめております。

さて、先ほど知事のご挨拶にもございましたように、本年8月4日5日、記録的な豪雨に福井県は見舞われました。いわゆる線状降水帯に見舞われたのであります。そして、最も酷かったのは、南越前町と

勝山市、両市町で極めて大きな被害を被りました。今、復旧作業の真ただ中ではありますが、一日も早く復旧し、また復興いただけるように願っているところでございます。先週の11日から査定が始まりまして、恐らく年内いっぱい査定が終わりであろうと思っております。設計施工にいち早く掛っていただき、特に豪雪地帯であります両市両町であります、融雪災害、二次災害のようなことのないように、政治行政の上で全力を尽くしていきたいと思っております。

そのようなことが全国各地で起こっており、「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」に基づき、十分な予算を獲得することが治水事業の推進に大きな役割を果たすと思っております。令和5年度の当初予算が間近に編成が迫っておりますので、この大会の大きな趣旨であります予算獲得に皆さんと一緒に全力を挙げ、その成果を出したいと思っております。なかなか厳しい環境であることは承知しておりますが、全力を挙げることが、国民のあるいは県民の生命財産を守ることに叶うわけですので、これから皆さんと一緒に一生懸命頑張りたいと思う次第です。皆さまにはこれからもご指導ご支援を賜りまして、生涯をかけて治水事業あるいは砂防事業といった事業推進に全力を挙げることをお誓い申し上げます。

結びに、今日ご参会の皆様方のますますのご活躍とご顕彰を心よりご期待申し上げましてご挨拶いたします。

本日は誠におめでとうございます。



近畿地方整備局長  
渡辺 学

平素より近畿地方整備局の治水事業に対しまして多大なるご理解とご支援を賜っており、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。近年、毎年のように大規模な水害が全国各地で相次いで発生し、近畿地方におきましても本年8月4日から5日にかけて、福井県嶺北地域南部から滋賀県北部において記録

的な大雨に見舞われ、福井県南越前町の鹿蒜川、滋賀県長浜市の高時川などに大きな浸水被害が発生いたしました。

各地で記録的短時間大雨情報が度々発令されるなど、気候変動の影響による水災害の激甚化・頻発化が現実のものとなり、治水対策の推進は待ったなしの状況でございます。

気候変動の影響による水害の激甚化・頻発化に対応するため、河川改修やダム等の整備に加え、内水対策や雨水貯留浸透施設の整備等流出抑制対策の強化など、河川流域全体のあらゆる関係者と協働し、流域全体で水害を軽減させる流域治水の更なる推進が必要でございます。

国土交通省では、気候変動による水災害の頻発化・激甚化を踏まえ、「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」も活用した事前防災対策・流域治水を計画的に実施しているところがございます。

今後も国民の生命と財産を守るため、事前防災対策・流域治水を拡充・加速化し、流域の安全・安心の確保のためにも、何よりも予算が必要であり、5か年加速化対策の早期の執行及び5か年後においても命を守る予算の継続的な確保が重要と認識しております。

近畿地方に治水の投資が回ってこない、そのため近畿地方の発展が阻害され埋没するということにならないよう、危機感を持って地域の実状をしかるべき人に向けて伝えていく必要がございます。

まずは、11月16日の「治水事業促進全国大会」の場を通じて、たび重なる水害を経験してきている近畿の声を、その切実な思いをお届けいただければ幸いです。

国土交通省としても、予算確保に向け最大限の努力をいたしますので、本日お集まりの皆さまにおかれましても引き続きのご支援をよろしく願いいたします。

最後になりますけれども、この治水大会をご準備いただいた福井県をはじめとする皆様に感謝するとともに、本日ご参加いただいた皆様の今後のご活躍を祈念しまして、私のご挨拶といたします。

本日は、ご盛会本当におめでとうございます



福井県議会議長  
大森 哲男

本日令和4年度近畿地方治水大会が、ここ福井県において近畿各府県からご参集のもと盛大に開催されますこと、心よりお慶び申し上げます。そしてご歓迎申し上げます。

また、皆様方には、日ごろから治水事業の推進を通じ、安全・安心なまちづくりに向けて多大なご尽力を賜り、深く感謝と敬意を申し上げます。

さて、河川は我々が生きる上で欠かすべきことのできない生活用水、農業用水や工業用水として活用され、さらには水力発電等によりエネルギーの供給源として我が国の産業を支えております。また河川はさまざまな生き物を育み、豊かな自然環境をもたらすとともに美しい環境を形成し、我々の生活に潤いと安らぎを与えてくれます。

一方、近年の気候変動により、局地的な豪雨や台風が頻発するようになっております。相次ぐ土石流や堤防の決壊等により、毎年のように全国各地に甚大な被害が生じております。私も平成16年に福井市民として福井豪雨を経験しました。そして、今年8月には記録的な豪雨によりまして、家屋の被害や浸水、そして堤防の決壊、田畑への土石流の流入、そして国道8号線や北陸自動車道、JR北陸線が長期間にわたり不通となり、関西と北陸を結ぶ大動脈が分断され、経済的にも大きな支障を生じたところでございます。

災害を未然に防ぎ、地域住民の安全と安心を確保する上で、治水対策の大切さを改めて痛感したところであります。氾濫域を想定した上で河川改修やダムの整備などを進める、いわゆる流域治水対策を強力に推進していくため、必要な予算の確保が必要であります。

福井県議会としていたしましても、先の9月の議会におきまして、被害者の生活再建への支援、そして災害復旧事業等への財源の確保および「防災・減

災、国土強靱化のための5か年加速化対策」について、国土強靱化の取り組みをさらに推進するために必要な予算を確保するとともに、5か年加速化対策後も予算財源を別枠で確保し、継続的に取り組むことになることを強く求めた意見書を全会一致で可決したところであります。

我々も、地域住民の生命財産を守るために必要な社会資本の整備に引き続き努力してまいります。皆様方におかれましては、近畿地方が将来にわたり安全で暮らしやすい地域となりますよう治水事業の推進と安全な生活環境づくりに一層のご尽力をお願い申し上げます。

結びになりますが、今大会の成功と治水事業のさらなる推進並びにご参集の皆様のご活躍ご顕彰を心より祈念申し上げまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございます。

■意見発表



福井県南越前町長  
岩倉 光弘

※「令和4年8月4～5日の大雨による災害について」と題し、意見発表をしていただきました。



福井県高浜町長  
野瀬 豊

※「高浜町の治水対策の取り組み」と題し、意見発表をしていただきました。



奈良県川西町長  
小澤 晃広

※「川西町の治水対策、いままで・これから」と題し、意見発表をしていただきました。



兵庫県たつの市長  
山本 実

※「一級河川 揖保川 流域治水対策に向けて」と題し、意見発表をしていただきました。

■治水事業概要説明



国土交通省水管理・  
国土保全局 治水課長  
林 正道

※「最近の治水行政について」と題し、ご説明をいただきました。



## ■大会決議



福井県治水海岸協会  
副会長（若狭町長）  
渡辺 英朗

※以下の大会決議をお読みいただき、承認されました。

治水事業は、洪水等による災害から国民の生命と財産を守るといふ国土強靱化の最も根幹的な事業であるとともに、国民生活において安全・安心を実現するための最重要事業であり、着実に推進することが極めて重要である。

近年、地球温暖化に伴う気候変動の影響等から集中豪雨が頻発し、激甚な災害が全国各地で発生している。特に、西日本を中心に記録的な大雨となった平成30年7月豪雨や、令和2年7月豪雨では、停滞した梅雨前線の影響で、西日本や東日本の広い範囲で大雨となり、各地に甚大な被害をもたらし、大きな爪痕を残した。

近畿地方では、平成30年7月豪雨や平成30年9月の台風第21号では強い風とともに非常に激しい雨を記録し、各地で甚大な被害が発生したが、これまでに実施した治水事業が大きな効果を発揮し被害を大幅に軽減した事例が確認されている。また、本年8月の大雨により、福井県においては、鹿蒜川を始め多くの河川で溢水・越水が発生し、多数の家屋が浸水するなど、甚大な被害となった。一方、これまでの国土強靱化予算などを活用して実施してきた河川改修及び樹木伐採・堆積土砂撤去やダム洪水調節などの効果が、今回の大雨においても多くの河川で発揮されたところである。

これらの実績から、事前の防災対策は、被害を大きく軽減でき、人命を守ることにつながるなど、社会経済活動への影響を軽減できることから、これまで長年にわたり推進されてきた治水事業が果たしている役割、効果をみれば、事前投資の有効性は明らかであり、事前防災対策の着実な推進に取り組むべきである。特に、新型コロナウイルス感染症が強く国民生活への影響を

与えている中で、さらに自然災害が安全・安心な日常生活を脅かす厳しい状況下において、これまで以上に治水対策事業を継続して実施する必要がある。

また、近年の気候変動による水災害の頻発化・激甚化を踏まえ、更なる治水対策の強化が急務であり、あらゆる関係者が協働して流域全体で行う流域治水対策を推進し、ハード対策とソフト対策による総合的かつ多層的な対策を実施することが重要である。そのため、事前防災対策として河川やダムの一層の整備を強力に進めるとともに、河川管理施設の機能を最大限に発揮させ、長寿命化計画に基づく適切な老朽化対策が不可欠である。

特に近畿地方では、今後40年以内に90%の確率で発生する恐れがある南海トラフを震源とする巨大地震に対して、各自治体は人命を最優先とした減災対策に積極的に取り組んでいるが、この地震に伴って大津波の発生が現実視され、また、日本海での津波発生の可能性も指摘されていることから、堤防の整備・嵩上げも含めた強化など、必要な対策を緊急かつ重点的に進めることが不可欠である。

一方で、河川や水辺は、地域住民の生活に深く関わっていることから、地域の特性に配慮し、歴史、風土等に根ざした魅力ある水辺空間の創出と豊かな河川環境の形成に資する河川整備を計画し、かつ着実に進めていく必要がある。

よって我々は、ここに近畿地方治水大会を開催し、その総意に基づき、次の事項の実現について、国会ならびに政府に対し強く要望する。

## 記

- 一 近年、激甚化・頻発化している自然災害や切迫する南海トラフ大規模地震等に備え、「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」を活用し、ハード・ソフト両面での防災・減災対策に取り組んでいるところであり、引き続き、重点的・集中的に「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」を計画的に講じるために必要となる予算について、物価や人件費の高騰による影響を考慮したうえ、必要な事業量を確保できるよう当初予算及び補正予算において昨年度以上に確実に措置するとともに、5か年加速化対策後も中長期的見通しのもと、引き続き、国土強靱化に必



要な予算・財源を計画的かつ安定的に別枠で確保すること。

- 一 気候変動等により、頻発化・激甚化する豪雨に備え、「事前防災対策」としての河川やダム等の整備を強力に進めるとともに、流域のあらゆる関係者の参画と協働のもと、特定都市河川の指定拡大、及び特定都市河川流域における雨水貯留機能の強化や水災害リスクを踏まえたまちづくり・住まいづくりを推進するための予算・税制等の新たな支援制度の創設等流域全体で行う「流域治水」の推進に向けた施策を積極的に推進すること。
- 一 切迫する南海トラフを震源とする地震等に備え、河川・海岸堤防等の耐震・液状化対策を進めるとともに、施設の計画規模を超える津波への被害軽減への取組や水門の整備及び自動化・遠隔操作化など、地震・津波浸水対策を着実に推進すること。
- 一 令和元年度に創設された大規模特定河川事業等の個別補助事業の予算の別枠確保に加え、大規模で抜本的な事業について、新たな個別補助制度を創設するなど、個別補助事業の強化・充実を図ること。
- 一 これまで整備してきた河川管理施設の機能を最大限発揮できるよう、長寿命化計画等に基づく予防保全の実施や、堤防等の定期点検及び点検結果を踏まえた戦略的な維持管理、河川管理施設の老朽化対策や大規模更新等を支援し、継続的に施設機能を確保する取組を推進すること。また、水門等の自動化・遠隔操作化とともに、AIやドローンなど新技術の開発・導入の推進や技術者の育成などにより、維持管理の効率化を推進すること。
- 一 被害の軽減、早期復旧・復興には、ハード対策だけでなく、国、県、市町等の防災関係機関が連携して、災害時にとるべき行動を時系列で定めたタイムラインを作成するなど、円滑な避難につながるソフト対策の推進が必要なことから、浸水想定区域図・ハザードマップの空白地解消、AI等のデ

ジタル技術を活用した洪水予測、ダム運用の高度化等により災害リスクコミュニケーションを推進し、総合的な防災・減災対策をより一層、充実・加速化させること。

- 一 地方が地震対策や老朽化対策、流下能力確保を自主的かつ円滑に進められるよう、緊急防災・減災事業債、緊急自然災害防止対策事業債、緊急浚渫推進事業債の延長等、起債制度の拡充を図ること。
- 一 河川や水辺が持つ多様な機能や地域の特性に配慮し、歴史、風土等に根ざした魅力ある水辺空間の創出と豊かな河川環境の形成に資する河川整備を推進すること。
- 一 これまでに経験したことのないような災害に備え、国土交通省の地方整備局及び事務所などの出先機関とあわせてTEC-FORCEの体制の充実、機能強化を図るとともに、国、府県・市町村間で密接な情報共有を行い、災害対応を強力に実施できるよう、連携・協力体制の強化・充実を図ること。

以上、決議する。

令和4年10月18日

近畿地方治水大会

#### ■次回開催県挨拶



和歌山県県土整備部  
河川・下水道局長  
太田 和良

※次回開催県を和歌山県に決定し、和歌山県県土整備部河川・下水道局長にご挨拶をいただきました。